

ブレーメン州に位置する2つの多世代の家を概観して

AN OVERVIEW OF TWO MULTI-GENERATIONAL HOMES LOCATED IN THE PROVINCE OF BREMEN

○下平真由^{*1}, 松原茂樹^{*2}, 山田あすか^{*3}

SHIMODAIRA Mayu, MATSUBARA Shigeki and YAMADA Asuka

This paper reports on the operation and facility planning of two “Mehrgenerationenhaus” operating in the canton of Bremen. the commonality of the two cases is that the places are being used in a new form by the church in response to changes such as generational change and the decrease in church congregations due to the increase in immigrants and refugees. In an area where a religious community with a church at its core once took root, the facility is now being operated in a way that is open to the community for a diverse range of local residents, indicating the shrinking of the religious community and the movement to foster a multi-generational community to replace it.

Keywords : Mehrgenerationenhaus, regional base, Immigrant and Refugee Assistance

多世代の家, 地域拠点, 移民・難民支援

1. 本稿の概要

我が国をはじめドイツやイタリアなどの諸外国では、少子高齢化の進行、核家族の定着、多世代での交流の減少や地域コミュニティの希薄化を背景に、地域コミュニティの場の重要性が示唆されており、様々な取り組みがなされている。本稿では、ドイツ連邦政府の「Mehrgenerationenhaus（多世代の家）」に注目し、構造的に弱い地域とされるブレーメン州内で活動を行う2件の多世代の家の施設計画や取り組みを報告する。

2. 調査概要

2.1. ブレーメン州の特徴

ブレーメン州は、ドイツ連邦共和国を構成する16の連邦州の一つである。ブレーメン州は、離れた位置にある二つの市である、ドイツ北部のブレーメン市とヴェーザー川の河口に位置するブレーメンハーフェン市であ

る。古くから国際貿易が盛んで、造船業や海運業、漁業で栄えた都市である。ドイツ全土で船による貿易に代わって自動車や列車、飛行機等の陸路や空路での貿易が盛んになったことから人口は2011年頃より一度減少傾向であったが、その後、産業構造の転換により、研究機関や教育・文化の誘致、風力発電等の再生エネルギー事業、食品業、グリーン産業開発等に力を入れたことで、人口は増加に転じている。しかし、2023年時点での65歳以上の高齢者の割合が全体の21.0%¹⁾、更に失業率が10.6%²⁾と高いことから、ドイツ全土で見ると構造的に弱い地域^{注1,3)}に該当する。長い間ブレーメンの主な交通手段は船舶であったが、2001年に国際便が発着するブレーメン空港の完成と、ICE（ドイツ鉄道の長距離鉄道網）に接続する中央駅の設置により、各地へのアクセスが容易となった。ブレーメン州はグリム童話の「ブレーメンの音楽隊」で親しまれており、旧市街

*1 東京電機大学大学院未来科学研究科建築学専攻 修士課程

*2 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授・博士（工学）

東京電機大学未来科学部建築学科 教授・博士（工学）

*3 東京電機大学未来科学部建築学科 教授・博士（工学）

*1 Master Stud., Architecture and Building Engineering, Graduate School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ.

*2 Prof., Division of Global Architecture, Graduate School of Eng. Osaka Univ. Dr. Eng.

*3 Researcher, Dept. of Architecture, School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr.Eng.

地は多くの観光客でにぎわいを見せる。

2.2. 連邦政府による「多世代の家」について

多世代の家は2006年にドイツの中で進む少子高齢化や地域間での経済力の差等の課題の解決策として世代間交流の促進に焦点が当てられ、連邦政府により立ち上げられたプロジェクトである⁴⁾。その主旨は、既に存在している施設を活用し、世代を超えた交流ができる場の提供を通じた地域コミュニティの強化である。運営の仕方も様々であり、多世代の家単体で運営するものだけでなく、複数の事業者が関係し運営を行うものもある。他事業と多世代の家事業の関係は、連邦家族省提供資料及び現地調査によって①独立型、②枠組み（充填型）、③枠組み（連携型）、④柱型、⑤一部型の5つに類型できる（図1）。

2.3. ブレーメン州の多世代の家について

ブレーメン州には4つの多世代の家があり、そのすべてがブレーメン市に位置する。2024年9月9日に、

独立型	枠組み型	枠組み型（充填）	一部型	柱型
				
施設全体が MGH である	諸機能を持つ施設全体をまとめる枠組みが MGH である	枠組み型のうち、諸機能の相互連携を MGH 事業として強く実施	施設がもつ諸機能の一つが MGH である	施設がもつ諸機能の主要な部分が MGH である

図1 複数事業者との関係

表1 調査概要

ブレーメン多世代の家調査概要	
事例①	未来の家 (Haus der Zukunft) 2024年9月9日 主な以下の項目に関してインタビュー調査を行う。 多世代の家としての経緯、設立年、周辺との関係、同敷地内施設の概要、運営元との関係、連邦政府との関係、補助金、対象利用者、活動内容等
	ブレーメンスイス地区の多世代の家 (Mehrgenerationenhaus Bremen_Schweizer Viertel)
事例②	2024年9月9日 主な以下の項目に関してインタビュー調査を行う。 多世代の家としての経緯、設立年、周辺との関係、同施設内の施設の概要、運営元との関係、運営元他施設について、連邦政府との関係、補助金、対象利用者、活動内容等

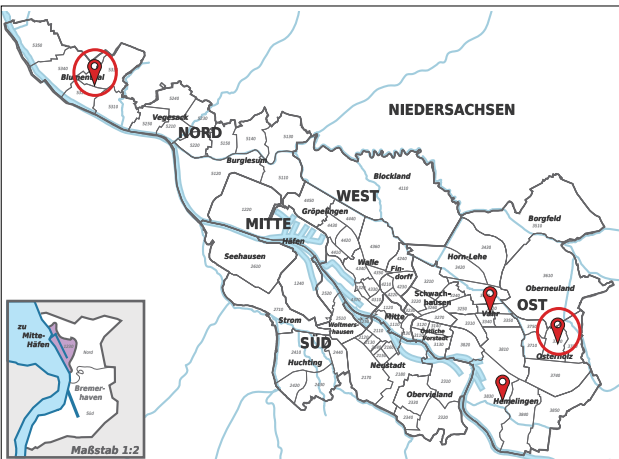


図2 ブレーメン州の多世代の家の位置

調査協力の得られた2事例、市内北西部に位置する未来の家 (Haus der Zukunft) と、市内東部に位置するブレーメンスイス地区の多世代の家 (Mehrgenerationenhaus Bremen_Schweizer Viertel) に対し、見学・インタビュー調査を行った（表1、図2）。施設の運営や利用実態、周辺連携施設の見学等から得られた施設概要を次項より詳細に述べる。

3. ブレーメンに位置する多世代の家2事例の報告

3.1. 未来の家 (Haus der Zukunft) について (インタビュー：レナート氏・シナ氏)

[基本情報⁵⁾] (写真1、図3、図4)

□所在地：Lüssumer Heide 6, 28777 Bremen, ドイツ

□施設種別：多世代の家、企業のオフィス

□運営主体：未来の家 e.V. (Haus der Zukunft e.V.)

□敷地面積：1550㎡程度

□建築面積：275㎡程度

□延床面積：825㎡程度

□構造・規模：木造・2階建て (地階あり)

□提供するサービス：子供連れの家族へのサポート、カウンセリング、レジャー、スポーツ、文化活動、ド



写真1 外観写真



図3 配置図 (提供資料に基づく)

イツ語コース、キャリアガイダンス、就職促進、毎日のランチ

□運営時間：月～木曜日は 9:00 ～ 17:00, 金曜日は 9:00 ～ 15:00

□休館日：土曜日・日曜日

□開設年月：1993 年に建築。

大人も利用できる場ということから 2007 年に多世代の家に登録

1) 地域性について

ブレーメン州北西部に位置するリュスム (Lüssum) は、中心部とその周辺の地区で人口構造や環境が二極化しているという大きな特徴がある。2006 年のリュスム地区計画の報告書⁶⁾によると、中心部は 1960 年代

から 1970 年代に建てられた建物が立ち並んでおり、大規模な住宅団地 (写真 2) である。一方、周辺の地区は 1950 年代から 1970 年代に建てられた一戸建てが多く立ち並ぶ住宅街である。リュスム地区の人口は 12,590 人で中心部に住む人はその 1/4 程度を占めている。人口は 1994 年頃より減少しており、全体で約 15%もの減少が見受けられる。特に中心部での人口減が顕著であり、中心部は 10 年間で 30%もの人口が減少している。

中心部は、18 歳未満の割合が 31%，周辺の地区は 10%～17% 程度であり、中心部はこどもや若者が多く住んでいる。また、中心部に住む高齢者や生産年齢人口も減少している。さらに、中心部は移民・難民がかなり多い地区として知られており、中心部の住民の約 50% が何らかの移民・難民の背景を持つ。一方で周辺の地区の移民・難民の割合は 6%～10%と二極化している現状が見て取れる。1960 年代に大きな企業が倒産したことにより、中心部を離れる住民が多く、そうした地域に移民・難民が多く移り住んだとされる。1980 年代はイラン系、1990 年代はイスラム系、2000 年代はイラク系、2010 年代はシリア系、2020 年代はウクライナ系と移民の出自には年代により傾向が見られる。この地区にはこの住宅街が開かれる契機となった産業が撤退して以降、新たな大規模産業が誘致されることはなかった。従って就労先が無く、市街地への通勤にも不便な地域であることから、低所得者層が多い。中心部は、生活保護受給者の割合が高く 32% (周辺の地区は 7%～12%)，また失業者の割合も 22.6% とブレーメン州全体の割合 (16.3%) より高く、未成年による犯罪も高い水準にあるという。

2007 年に認定された多世代の家と GEWOBA (次項で詳細に述べる) の取り組みやブレーメン市の計画により、現在では公園の整備や住環境は幾分か改善されて

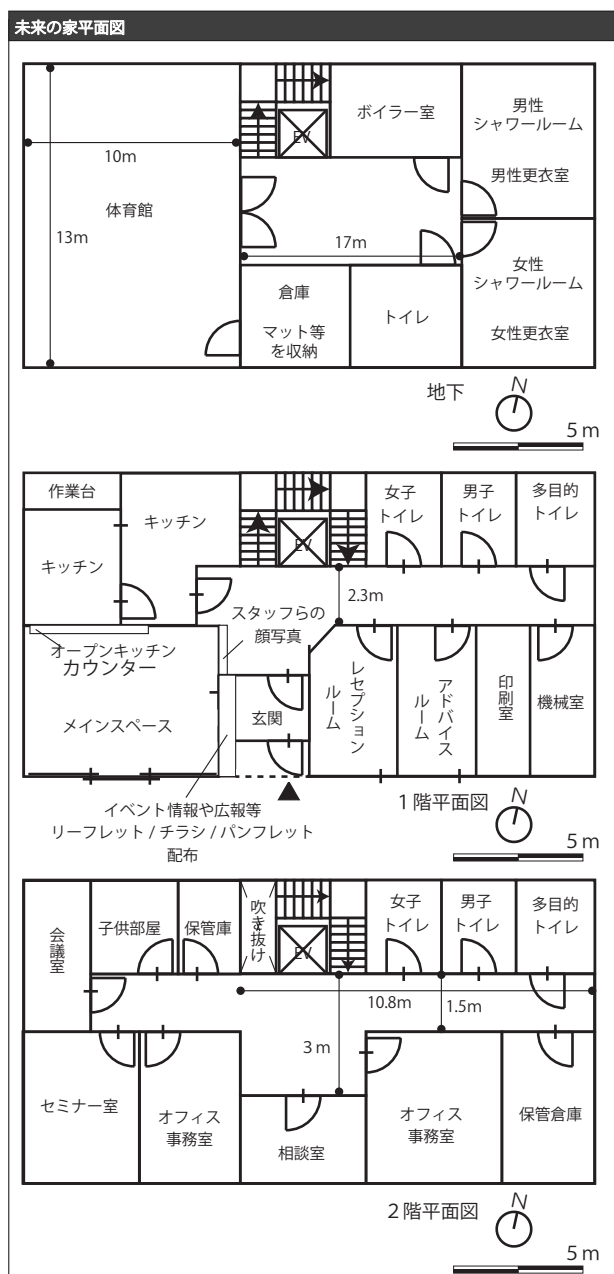


図4 各階平面図



写真2 周辺の大規模住宅団地

おり、中心部の住宅団地にはほぼ空きがない状況となっている。しかし、貧困に関しては依然として課題であるため、今後も更なる支援が必要になる地区である。

2) 施設の特徴

■建物の使用経緯と運営について

敷地は教会の持つ土地であり、未来の家はこどもの放課後の居場所として1997年に建てられ、その後大人も利用できる教育の場として、2007年に多世代の家として認定された。同敷地内には、図3と表2に示すように多世代の家と教会に加え、1～3歳の保育園と3歳以上の幼稚園がある。保育園・幼稚園は教会により運営されているが、未来の家はHaus der Zukunft e.V.という登録団体^{注2)}が運営を担っている。運営主体は異なるが、それぞれが協働の仲間として運営されている(図1事業の位置づけのタイプの柱型に該当)。

■入口

入ってすぐの玄関にイベントのチラシを設置してい

る(写真3)。また、ボランティアスタッフ・常勤スタッフの担当者の顔と名前が分かるような看板を設置しており、気軽に利用できる雰囲気と安心して利用できる環境を作り出している。

■オープントレフ^{注3)}

前面がガラス張りになっており、開放感のあるオープンなスペース(写真4)。カフェとして、安価で食事の提供が行われている(写真5)。周辺の治安面からこのようなオープンなつくりと雰囲気が重視されており、こちらも入口同様に利用に対する安心感を獲得しているのではないかと考えられる。

■体育館

地下には、幼稚園からの要望により体育館が設けられている(写真6)。同敷地内の幼稚園にはこのようなホールや大空間がないため、幼稚園による利用が主となっている。幼稚園だけでなく、妊産婦のストレッチや体戻し体操の場、高齢者の太極拳やヨガの場等身体を

表2 未来の家の施設概要

施設名	Haus der Zukunft e.V.	Lüssumer Heide 8	Lüssumer-Kirche - Kirchengemeinde Lüssum	Kita - Kirchengemeinde Lüssum
外観写真				
所在地	Lüssumer Heide 6, 28777 Bremen, ドイツ	Lüssumer Heide 8, 28777 Bremen, ドイツ	Neuenkirchener Weg 31, 28779 Bremen, ドイツ	Neuenkirchener Weg 29, 28779 Bremen, ドイツ
施設種別	多世代の家、企業のオフィス	1～3歳までの保育園	教会	4歳以上の幼稚園
運営主体	未来の家 e.V. (Haus der Zukunft e.V.)	福音ルーテル派リユスム教区 (Ev.-luth. Kirchengemeinde)	福音ルーテル派リユスム教区 (Ev.-luth. Kirchengemeinde)	福音ルーテル派リユスム教区 (Ev.-luth. Kirchengemeinde)
敷地面積	5000 m ² 程度	5000 m ² 程度	5000 m ² 程度	5000 m ² 程度
建築面積	275 m ² 程度	250 m ² 程度	380 m ² 程度	500 m ² 程度
延べ床面積	825 m ² 程度	300 m ² 程度	1140 m ² 程度	1000 m ² 程度
構造	木造	木造	レンガ造	木造
規模	2階建て(地階あり)	2階建て	3階建て	2階建て
提供サービス	子供連れの家族へのサポート、カウンセリング、レジャー、スポーツ、文化活動、ドイツ語コース、キャリアガイダンス、就職促進、毎日のランチ	3歳未満の子どもの預かり	教会、国際女性デー開催、多世代の家のオフィス、フリーマーケット(交換)	3歳以上の子どもの預かり、朝食と昼食の時間の食事の提供
運営時間	月～木曜日は9:00～17:00 金曜日は9:00～15:00	8:00(7:00)～14:00(16:00)	礼拝は日曜日10:00～11:00	8:00(7:00)～14:00(16:00)
休館日	土曜日・日曜日	土曜日・日曜日	—	土曜日・日曜日
開設年月	1997年	1993年	不明	不明



写真3 入口のイベントパンフレット設置コーナー



写真4 オープントレフの様子

動かす系のイベントの開催においてもこの空間が使用されている。

■オフィス

未来の家では、いくつかの別の団体に部屋を貸し、一部がオフィスとして使用されている（写真7）。EPSYMO e.V. やブレーメン市リュスムのオフィス等がある。EPSYMO は一つの独立した e.V. で、こどもの夜泣きや親子の関係づくり、相談カフェ等「家族」に関するすべてのことにおける困りごとの対応を行う。

■アドバイスコーナー・言語学習（写真8）

移民・難民の背景を持つ住民が多いことを受け、アドバイスコーナーやドイツ語学習の場が設けられている。特にアラビア語圏の方が多いことを受け、説明書きにアラビア語を追加している。ドイツは役所への申請も書類での手続きが多いことから、このようなアドバイスコーナーの需要が伺える。

また、ドイツ語を学びに来る母親が子供を預けて勉強できるよう、こどもの遊びの部屋が併設されている。言語プログラムの履修を申し込み、履修期間となってから18 か月は、基本料金無料で利用できる（教科書代別途必須）。こうした言語習得を目的とした長期的なプログラムは、ドイツ全土で行われている。現在の利用者の多くが、西アフリカをルーツにもつ移民・難民であるが、その人種や出身は社会情勢によるため、プログラムの1年半を終えて次の履修者を迎え入れる際には構成が大きく変化するという。

■幼稚園・保育園（表2 橙色・桃色）

敷地内には教会が運営する1歳～3歳の保育園と3歳以上の幼稚園がある（写真9）。この保育園部分は以前は就学児の放課後の居場所（学童保育）として利用されていたが、ブレーメン市の方針により小学校のカリキュラムが変更され、午後にも授業が行われるようになったことを受け、利用者が減少したことから、1993年に保育園となった。

■教会（表2 紫色）

教会の中には、コミュニティセンターやセラピールーム、療育の場等が設けられている。国際女性デーの開催の場としても使用されている（写真10）。床は石造りとなっており、雨でも高齢者が転びにくいようにつくられている（写真11）。また教会の一部に未来の家の運営団体のオフィスがある（写真12）。これは、以前教会の改修を行った際に、改修費用を一部負担したことから、現在は月々の光熱費のみで部屋を借りている。教会とし



写真8 言語学習の部屋の様子



写真5 提供される食事の一例

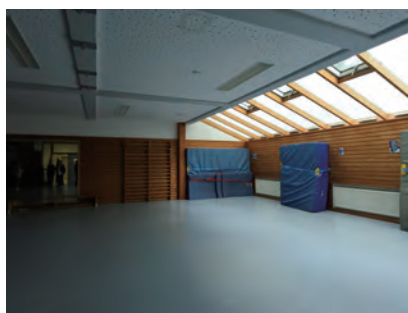


写真6 体育館

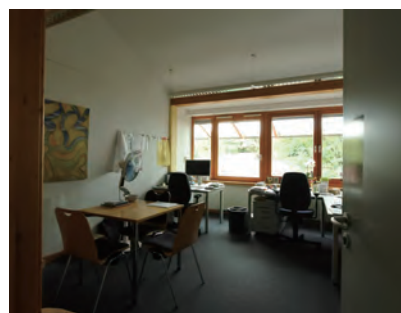


写真7 オフィス



写真9 幼稚園外観



写真10 教会内部

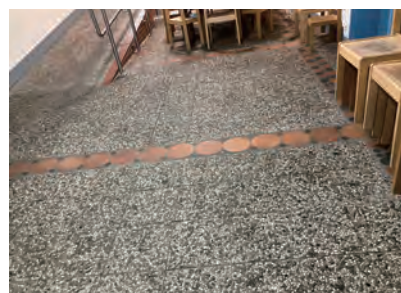


写真11 石造りの床

でも信者の減少により部屋が余っていることが問題視されており、また、人助けとして部屋を貸し出すことを良としていることから、施設同士が持ちつ持たれつの関係性を築いている。

3) 施設周辺について

周辺は大規模な住宅団地が立ち並ぶ。

■公園の整備

周辺にはいくつか公園が散見された（写真 13）。ブレーメン市は、リュスムの環境改善を求めており、公園の改修事業に力を入れ取り組んでいる。こどもが安心して遊べる環境をつくり、治安の改善を目指している。

■ GEWOBA について

GEWOBA（ゲヴォーバ）とは、ブレーメン州に本社を置く住宅建設公社であり、ブレーメン州にある約 42,000 戸の住宅団地を管理する^{7) 注4)}。GEWOBA の概要、沿革を図 5 に示す。GEWOBA は、前身の非営利団体設立の 1924 年からおよそ 100 年にわたり活動が続けている。その事業は多岐にわたり、住宅団地の新築・改築等の管理のみならず、地区全体の開発事業、病院の建設、また、GEWOBA 財団を立ち上げ、教育面での事業展開も行っている。

未来の家からほど近い場所に、GEWOBA のオフィスがあり、周辺の団地の管理を行う（写真 14）。以前は多世代の家に寄せられる相談の多くが住む上での困りご

とや近隣住民同士でのトラブル等住環境の改善を求めるものだった。現在では GEWOBA による団地の改築とブレーメン市リュスム開発事業による公園の改修等の住環境の整備により、住民が交流を目的として多世代の家に足を運ぶようになり、居場所づくりを行う上で、地域の住環境の整備はかなり基礎的かつ重要であるといえる。多世代の家と GEWOBA の直接的な関係こそないものの、このようにお互いが周辺住民や利用者を通じて間接的に関係性を作り出している。

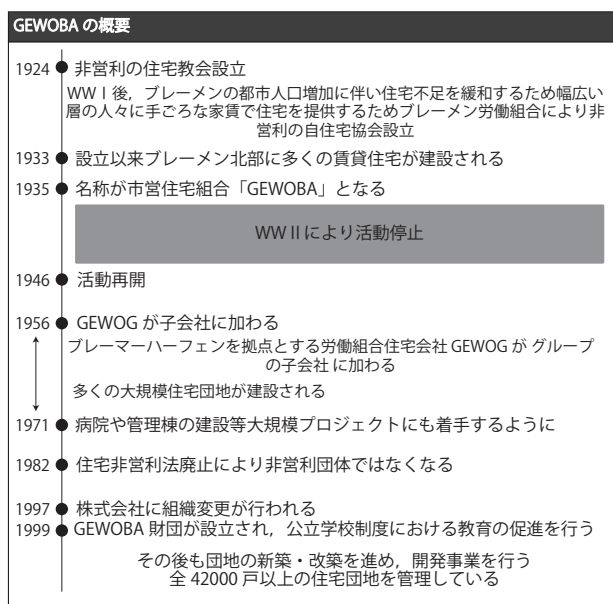


図 5 GEWOBA 概要



写真 12 教会の中の多世代の家オフィス



写真 13 周辺の整備された公園



写真 14 近隣の GEWOBA オフィス



写真 15 施設外観写真



図 6 配置図兼 1 階平面図

3.2 ブレーメンスイス地区の多世代の家 (Mehrgenerationenhaus Bremen_Schweizer Viertel) について (インタビュー：マリーナ氏) [基本情報⁸⁾] (写真 15, 図 6, 図 7)

- 所在地：Graubündener Str. 10, 28325 Bremen, ドイツ
- 施設種別：サービス住宅, 居住権取得可能住宅, 多世代住居, 外来訪問介護 / 看護, 介護ショートサービス (デイサービス), 介護共同住宅 (老人ホーム, ショートステイ), 保育+幼稚園
- 運営主体：ブレーマー財団 (Bremer Heimstiftung)
- 敷地面積：1500㎡程度
- 建築面積：1000㎡程度
- 延床面積：3000㎡程度
- 構造・規模：3階建て (多世代の家として使用部分は1階)・RC造
- 提供するサービス：朝食・昼食・軽食提供, カフェ,

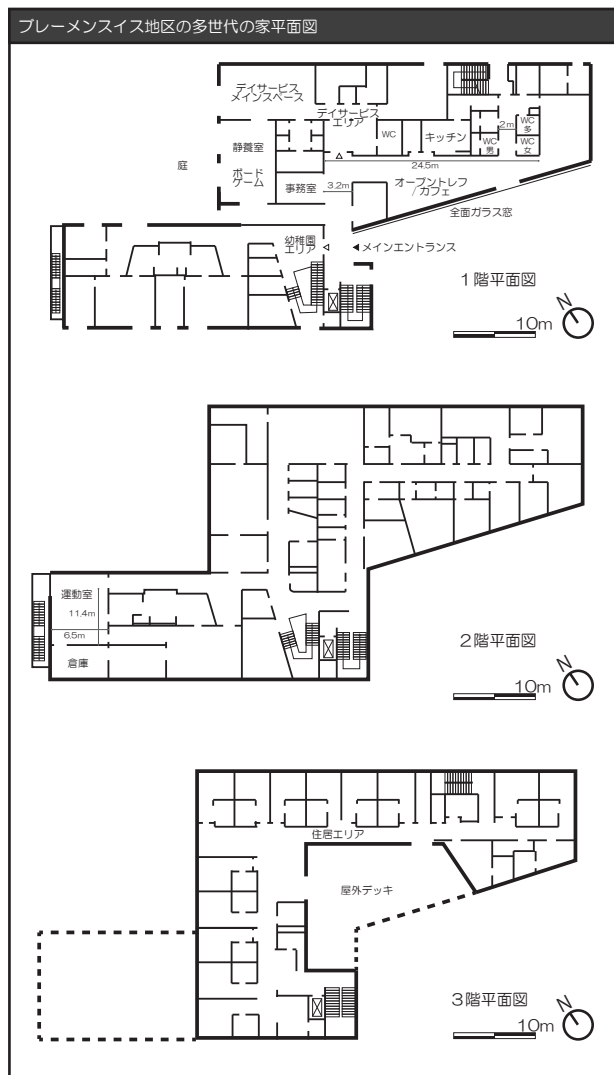


図7 各階平面図

デジタル教室, ミシン, 語学, ダンス, 音楽, コーラスコース, 等様々なコースの利用者がいる。

- 運営時間：月～金 10:00～16:00(金曜日 15時まで)
土曜日時間不明
- 休館日：日曜日
- 開設年月：2020年

信者の減少と建物の老朽化により解体された教会のあった敷地に財団が新設し, 同時期に多世代の家としても活動を始める。

1) 地域性⁹⁾

ブレーメンスイス地区は, ブレーメンオスターホルツの中心部に位置する地域であり, 移民・難民等多様な人が暮らす街であることから言語の多様性はまちに住む人の生活の一部となっている。住民約8,000人の内, 半数が移民・難民であり, 更にこども・青少年の7割以上が移民・難民である。現在この地区に住む移民として最も多いのはトルコ等の東ヨーロッパ出身の方で, 低所得者を含む社会的弱者が多く住む。こどもなどの若年層と高齢者が多い地域であることも特徴であり, 特にこどもの貧困が蔓延している地域である。街は, 一戸建てや広大な庭を持つ住宅エリアと隣接し, 1960年代に

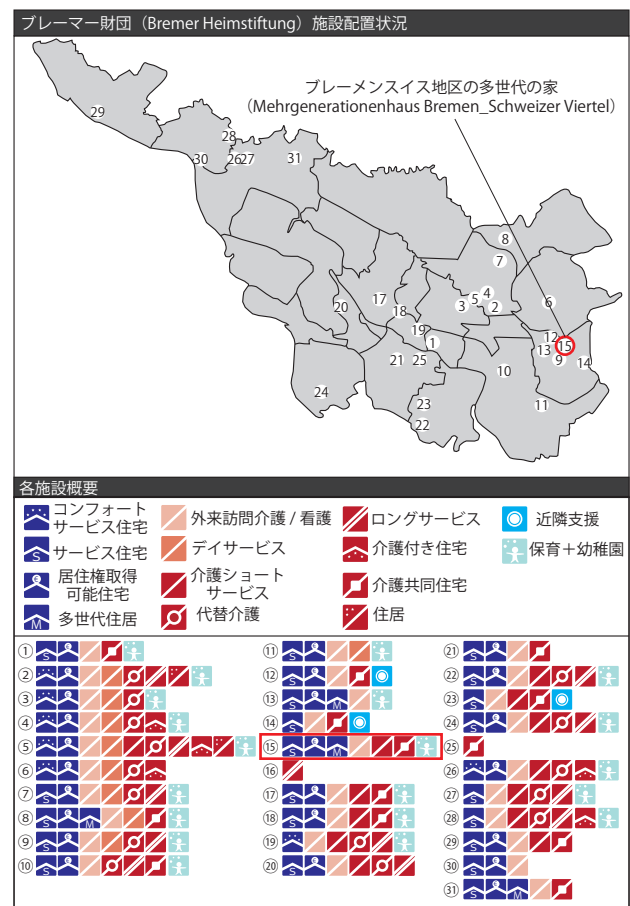


図8 ブレーマー財団運営の施設の配置状況と複合機能

建てられたアパートや高層ビル等が並び、エリア全体の外観を特徴づけている。

2) 施設の特徴

■建物の使用経緯と運営について

敷地にはかつてプロテスタント系の教会が建てられていたが、信者の減少と建物の老朽化により教会が解体された。この施設は2020年にその教会跡地に新たに設立された。教会の鐘楼にあった鐘が玄関前の壁面に飾られ、往時を偲ぶよすがとなっている。運営を行う団体はブレーメン市内で高齢者施設運営や高齢者支援を得意とするブレーメン最大の財団、「ブレーマー財団」である。財団はブレーメン市内に31の施設を運営しており、老人ホームやショートステイ、デイサービス等の高齢者支援だけでなく、住戸や幼稚園等も併設しており、多岐にわたる支援を行っている（図8）。本施設は財団初の多世代の家を併設した施設であることが特徴である。

本施設は、サービス住宅、居住権取得可能住宅、多世代住居、外来訪問介護／看護、介護ショートサービス（デイサービス）、介護共同住宅（老人ホーム、ショートステイ）、保育＋幼稚園が併設されており、図1事業の位置づけのタイプの枠組み（充填型）に該当する。施設全体の一日当たりの利用者数は平均約500名である。

財団は高齢者施設として施設の中で利用者同士の交流の場は設けやすく、支援が行き届きやすいが、その支援が地域にまで及びづらい（財団としての予算で地域までまかなえない）ことを問題視していた。そこで多世代の家を併設させ、財団としての活動を地域に還元している。

■オープントレフ（写真16）

オープントレフは、1階エントランスから入り、目の前に広がる大空間で、ガラス張りで開放的な場となっている。屋外の空間も共に利用される（写真17、写真18）。多世代の家の主な活動がこの場所で行われる。活

動は、カフェ、デジタル、ミシン、語学、ダンス、ミュージック等々である。食器や掲示物、家具からラグジュアリーな雰囲気づくりを行っており（写真19）、そうしたおしゃれな食器で頂く朝食は幸せな気持ちをもたらす。ハムやチーズ等の朝食が5€と比較的安価で提供されている。この施設には多くの機能が複合されているが、施設の精神的・象徴的中心はこのオープントレフであると運営者は考えており、このトレフの横に施設長室を設置して、玄関を通る人やオープントレフを訪れるすべての人に挨拶をしているという。

■施設外壁の鐘

施設の外壁には解体された教会で使用されていた鐘が設置されている（写真20）。周辺の教会利用者から、施設の建設と教会の解体に対し多くの反対意見が寄せられたことを受け、鐘は地域の歴史・記憶の保存や地域住民へのアプローチとしても教会の名残を残す要素として尊重されている。

■保育＋幼稚園

1～3歳、3～6歳の幼稚園。多くが3～6歳で定員は80名である。

■介護共同住宅（老人ホーム、ショートステイ）

定員は12名で要介護^{注5、10}レベル3以上の利用者が暮らす老人ホーム。1戸あたり25㎡の部屋と一つの全



写真16 オープントレフの様子



写真17 入口とガラス張りのオープントレフ



写真18 屋外スペース



写真19 オープントレフの内装

員で利用できる大きな共有スペースが設けられている(写真 21)。一般的な老人ホームより共有スペースが小さく設計されており、キッチンでの料理の音や匂い、交流の様子が見えるといった他の利用者の活動を5感で感じられる距離感である。

■介護ショートサービス(デイサービス)

静養室(写真 22)・会議室・運動室がある。定員 18 名のうち多くは要介護レベルは2～3だが、車いす利用者や要介護レベル5の方にも利用されている。送迎はタクシーにて行われており、ほとんどの利用者は周辺に住んでいるが、遠方だと 20km～30km 程離れた居住地から利用している。

会議室はガラス張りにしており、地域を見渡せるように設計されている(写真 23)。また、中で行われる講義や絵、ミシンによる活動が外から見えることで、地域住民の利用に繋がっている。作成したキーホルダーやマスコット等はバザーでの販売もあり、作品制作を楽しむことと地域とのかかわりを持つことの両方での役割がある。

財団は、静養室や会議室、庭がデイサービスの利用が終わる 16 時以降に使用されない空間となってしまうことを課題に感じていた。他企業に部屋を貸し出すことも視野に入れていたが、財団として活用する方法を模

索した結果、多世代の家による 16 時以降の場の再利用が行われている。塾や料理教室、こどもの放課後の居場所などが 16 時～21 時で開催されている。

■多世代住居

本施設の特徴として、一般住居が併設された多世代の家であることが挙げられる。現在は 8 戸の住居に 24 歳～88 歳の計 13 名が住んでいる。ここに住む若者は、安く住める代わりに週に 2 時間以上のボランティアが必須である。ボランティアの内容はそれぞれができることを基本にして多岐にわたる。例えば、アフリカ出身の青年による英語の語学教室の開催、ポーランド出身の方によるポーランド料理をふるまうイベント等が行われている。介護共同住宅とテラスを介して上下に繋がっており、利用者同士の関係性づくりに寄与している(写真 24)。

4. 施設を横断した考察と総括

ブレーメン州の 2 つの多世代の家の運営と施設計画について概観した。未来の家は、教会の持つ敷地の中で、教会や教会の運営する幼稚園・保育園とも協働的に運営されており、また、住宅建設公社と共に周辺の大規模団地の環境改善に取り組んでいる。ブレーメンスイス地区の多世代の家は、取り壊された教会の跡地に新たに設置され、高齢者支援を得意とする財団により利用



写真 20 施設外壁の鐘



写真 24 上下の関係がつくられるテラス



写真 21 介護共同住宅(老人ホーム、ショートステイ)



写真 22 静養室



写真 23 会議室

者の支援だけでなく、教会の信者を含む周辺地域住民等の多世代での新たな交流の場として開かれている。

この2事例はどちらも世代交代や移民・難民の増加による教会の信徒の減少といった変化を受け、教会から新たな形態・機能が追加・更新されながら場所が使い継がれている。かつての教会を核にした宗教的コミュニティの根付いた地域で、現在は多様な地域住民を対象に地域へ開く運営が行われており、宗教コミュニティの縮小とそれに代わる多世代共生コミュニティ醸成の動きがみてとれる。新興住宅地が開かれる際に教会が設置されるというキリスト教圏の特徴、またその住民構成が変化することでコミュニティエリアの地理的中心に位置する教会のソフト面でのコミュニティ中心性を喪失すること、それに代わる新たなコミュニティの中心が必要となることが読み取れた。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。なお、本研究は、科学研究費補助金（基盤B）(22H01668)「ケア中心型社会の基盤となる持続的な「共在の場」とケアの関係構築に関する包括的研究(研究代表者：山田あすか)」の一環として行われました。

[注釈]

注1)「構造的に弱い地域」は、1969年に設けられた「地域経済構造の改善（GRW）」という共同課題の連邦・州調整委員会によって統一された基準で決定され、(1)地域所得、(2)地域労働市場発展、(3)将来の雇用開発、(4)インフラ設備の4つの指標から構成され、経済力の低さや人口開発の停滞、アクセシビリティの悪さという立地特性に関係するとされている。「地域経済構造の改善（GRW）」は、1959年の連邦政府の「構造が不十分な農村地域の中心部の開発プログラム」、いわゆる「中心部プログラム」に基づき区分が行われている。

注2) e.V. とは、eingetragener Verein の略で直訳すると、登録団体となる。これは、登記された任意団体の略で、日本語に対応するのは「社団法人」に該当する。

注3)「Der Offene Treff =オープン・トレフ」、直訳すると「開放的な集いの場」のようなニュアンスになるが該当する日本語がないため、以下オープントレフと称する。

注4) GEWOBA は特定の意味を持たない固有名詞で、「Gemeinnützige Wohnungsbaugesellschaft」（公益住宅建設会社）または「Gemeinnützige Wohnungsbaugenossenschaft」（公益住宅協同組合）の略語に由来。

注5) ドイツの介護保険制度でも、日本と同様に要介護度は5が最大。6分野の要介護認定基準での評価点数による。

- ・要介護等級1：自立性または能力の軽微な障害
- ・要介護等級2：自立性または能力の相当な障害
- ・要介護等級3：自立性または能力の重大な障害
- ・要介護等級4：自立性または能力の著しく重大な障害

・要介護等級5：自立性または能力の著しく重大な障害、および介護における特別な困難

[参考文献]

- 1) 連邦政府人口統計ポータル, "ブレーメンの人口の年齢構成", < <https://www.demografie-portal.de/DE/Fakten/bevoelkerung-alterstruktur-bremen.html> >, (参照 2025.03.02)
- 2) ブレーメン労働会議所, "ブレーメン州の失業率の推移", < <https://www.arbeitnehmerkammer.de/statistik/arbeitslosigkeit.html> >, (参照 2025.03.02)
- 3) ドイツ連邦教育研究省, 領土境界画定ページ, < https://www.innovation-strukturwandel.de/strukturwandel/de/_documents/gebietsabgrenzung.html >, (参照 2025.03.03)
- 4) ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省, "連邦政府が行う多世代の家プロジェクトの全体概要", < <https://www.mehrgenerationenhaeuser.de/programm/was-ist-das-bundesprogramm> >, (参照 2025.03.03)
- 5) Haus der Zukunft e.V. HP, < <https://haus-der-zukunft-bremen.de/> >, (参照 2025.02.25)
- 6) ブレーメン州 HP, "リュスム・ボックホルン都市再開発地区は開発計画", < <https://bau.bremen.de/stadtentwicklung/stadterneuerung/gebiete/luessum-bockhorn-4743> >, (参照 2025.02.25)
- 7) GEWOBA HP, "私たちについて", < <https://www.gewoba.de/unternehmen/ueber-uns> >, (参照 2025.02.24)
- 8) ブレーメンスイス地区の多世代の家 HP, < <https://mgh-schweizerviertel.de/> >, (参照 2025.02.23)
- 9) ブレーメンスイス地区の社会福祉事務所運用 HP, "スイス地区へようこそ", < <https://www.schweizerviertel-bremen.de/kontakt/datenschutzhinweise/> >, (参照 2025.03.01)
- 10) Gem Med, ドイツの公的介護保険、2017年1月から認知症患者に対する給付を改善, <https://gemmed.ghc-j.com/?p=9395>, (参照 2025.03.04)